

## 賞与査定ランクと指数表（推測）

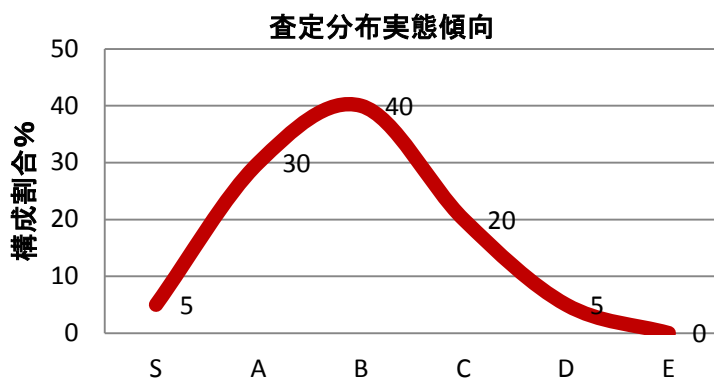
査定ランク	5級以下		6級		管理職社員		再雇用	
	指数	±指数	指数	±指数	指数	±指数	指数	±指数
SSS	-						150.0	50.0
SS	-						135.0	35.0
S	110.0	10.0	120.0	20.0	120.0	20.0	120.0	20.0
A	107.5	7.5	115.0	15.0	115.0	15.0	115.0	15.0
B	105.0	5.0	110.0	10.0	110.0	10.0	110.0	10.0
C	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0
D	95.0	-5.0	90.0	-10.0	90.0	-10.0	90.0	-10.0
E	90.0	-10.0	80.0	-20.0	80.0	-20.0	80.0	-20.0

## 考課査定と指数と関係(考察)

文責 伊達

- (1) 本表は、会社開示ないが、一般的な事例から推測した。実際と異なる部分がある。
- (2) Cを中位基準値を100とし等差数値で展開した。
- (3) 一般的人事考課はABCに数値は集中して分布グラフはBを中心に山形になる。
- (4) 評価の平均は、標準中位Cより上ずる傾向が常である。
- (5) 5級職以下は、相対指数によりで平均が財源が100となるように調整される。
- (6) 6級職以下は、絶対評価なので平均財源が100を超えることが多い。
- (7) 昇格した年は、成績はDランクに最終調整される。
- (8) Eランクは極めてまれでない査定されない。長欠者でもCランク実例がある。
- (9) 再雇用のSSSは人事考課書式記載されている。SS SSS実在者がいるのか不明。
- (10) 管理職の査定幅は不明であるが、6級に準じているものと推定する。
- (11) 嘱託の査定基準は、個別毎に異なるが、査定幅は再雇用に準じている？
- (12) 光和精鋳株式会社は査定実績の平均指数、ランク分布も開示をしていない。
- (13) 賞与に占める成績考課分比率は2014冬の次のとおり。

4級	36%
6級	39%
社員管理職	100%
再雇用	100%
嘱託	100%



管理職群の分布傾向例  
光和は公開してないが一般的な傾向  
Bを中心にして山形傾向になる。